

万世大路と大滝集落

——荷馬車輓き（荷馬車運送業）の繁盛——

万世大路とは、一般国道 13 号のうち福島～米沢間の道路を指す名称です。この道路は、明治 14 年（1881 年）10 月 3 日に最初に開通したもので、折から東北ご巡幸のお帰り道であった明治天皇がこの日栗子隧道米沢側でおこなわれた開通式にご出席されました。式後福島までの帰路の途中、大滝集落^{なかや}中屋旅館で御小休されています（記念碑「鳳駕駐蹕^{ほうがちゅうひつのせき}之蹟」あり）。明治天皇はご帰京後、翌年明治 15 年 2 月「栗子新道」と称していたこの道路を「万世大路（ばんせいたいろ）」と命名されました。

大滝集落は、万世大路（国道 13 号）を福島市中心部から 20 km ほど米沢側へ進んだ所にあった旧信夫郡中野村（現福島市飯坂町中野）の一集落です。万世大路の福島県側は明治 10 年（1877 年）7 月に工事に着手して

いますが、大滝集落はその際に工事基地（宿舎・飯場）として発足しました。開通後は、宿駅宿場街として栄えたけれども、明治32年（1899年）5月南奥羽鉄道（現奥羽本線）の開通により衰退、その後村民の努力により林産業等で定着し、最盛期には43世帯、約270人（昭和10年（1935年）1月）を数えました。しかし、戦前戦後を通じ大滝集落の主力産業であった製炭業が昭和30年代後半に衰退したため過疎化が進行し、集落は昭和53年（1978年）に閉郷、大滝100年の歴史に幕を閉じました。

ところで当時の大滝集落には、荷馬車にばしゃひ輓き（荷馬車運送業）を生業とするなりわい家が数軒あって福島～大滝～大平～米沢間の物資輸送にあたり大いに繁盛したという。明治・大正・昭和と三代に亘り荷馬車輓き（荷馬車運送業）を営んだ蒲倉家ご出身の奥野ミサオさんは、当時の馬方風情を「駄賃付馬子唄」として巧みに表現されている。当時の万世大路の様子をも伝える貴重な資料にもなっているので今回はこの詩を紹介してまいります。

駄賃付馬子唄

- ばんせいたいろ
1. 万世大路 石たたみ
馬よ気をつけよ、足もとに **【写真—1①②】**
- たづな
2. 手綱両手に すげ笠かぶり
手っこきやはんに、わらじ履き **【写真—2】**
- なりいで
3. 成出越えれば登り坂
急げや急げ、日が暮れる **【写真—3】**
- せきば むち
4. 日もとし堰場で、鞭うちかけりゃ
馬もいなく、車もきしむ **【写真—4】**

5. 暗いトンネル ^{たいまつ} 松明たより

【写真—5①②】

^{さんじんばし}
山神橋のあのもと

【写真—6①】

6. つむぎキセルで一息つけば
月もほほ笑み 流れも踊る

【写真—6②】

7. ^{できぬま} 長い出来沼、^{おおげた} 大桁がんけ
でこぼこ道の登り坂

【写真—7】

8. ^{まんたろう} 万太郎越えれば、^{ふくじゅそう} 福寿草山の
ひとり湧く水、手酌で飲ませ

【写真—8】

9. 馬のたてがみ、撫でながら
曲り曲れば、まんじゅ屋見える

10. ^{よしさわばし} 葭沢橋をば、馬方節で
曲り角から、大滝見える

【写真—9】

【写真—10①】

11. 「ちゃん今かい」
これがわが家だ大滝だ

【写真—10②】

12. 明日は栗子の^{おおだいら}大平
慈悲の恵をいただいて
三代続いた馬方節よ

【写真—11①～③】

【写真—12①②】

— [別添資料-2へ](#) —

— [本文へ戻る](#) —